

佳作

来年への再開

長崎県立長崎北高等学校一年 秋山 悠人

私は精霊流しを初めて諫早で体験したときのこと、心に深く残っています。精霊流しは、お盆に亡くなった人の霊を送り出す行事で、長崎の街で見たことはあつたけれど、実際に自分で参加してみると、その場の雰囲気や感動は想像以上でした。

八月十五日の夕方、諫早の町に着いた瞬間、町全体に響き渡る爆竹の音が聞こえてきて、何か特別なことが起こるんだという期待感で胸がドキドキしました。夕暮れが迫る中、様々な所を見てみると、色とりどりの灯りに包まれた精霊船が次々と進んでいくのを見えました。それぞれ別の船には、亡くなった人の好きだったものや趣味を表す装飾がされていて、僕たちが引いた船は、その人の写真やみんなが絵や文を書いた提灯、好きなキャラクターなどを飾り、引いてる時は音楽を流し、みんな引けるように引く人を交代し、声をかけあい精霊船を引きました。灯りに照らされた船が夕日が沈む中で浮かび上がる様子は、本当に幻想的で、息を呑むほどの美しさでし

た。船が通り過ぎるたびに、すれ違う人から頭を下げられる姿がとても印象的でした。そんな中で特に心に残ったのが、船とお別れをするときに「また来年会おうね」と声をかけていた瞬間です。最初は何気なく聞いた一言でしたが、その言葉には「来年もまたこの場所で再会できるように」という願いが込められているということを教えてもらい、自分の中で何か温かいものが芽生えたように感じました。また、諫早の町を歩きながら、精霊流しの準備をしているたくさんの人たちの姿を目にしました。大人も子どもも一緒になって精霊船を引っ張っている様子を見て、地域の絆や家族のつながりが強く感じられました。また、精霊船が進むにつれて、亡くなった人を想って引いている姿を見て、命の尊さや家族の大切さを改めて実感することができました。そして、船がゆっくりと流れていく中で、町全体が一つになって送り出すその光景は、心の奥深くまで響きました。船が見えなくなるまで祈り続ける人々の姿には、亡くなった人々への感謝と、来年また会いたいという思いが感じられて、胸が熱くなりました。諫早でも精霊流しを体験してみて、これはただのお祭りではなく、命や家族の絆について深く考えさせられる行事なんだと強く感じました。長崎の伝統行事を守り続ける人々の思いを、直接感じられたのはとても貴重な経験でした。

精霊流しは、一度体験しただけですべてを理解す

ることはできないと思います。なので、また来年も、そしてその次の年も、参加はできなくても、見に行ったりしてその深い意味をもっと理解していきたいと感じました。今回の体験を通して、精霊についてより興味をもつことができました。この行事を通して、亡くなった人々とのつながりを感じ続けることができるというのは、本当に特別なことだと思います。精霊流しを経験することで、日本の文化や伝統に対する理解が深まり、長崎の特別な魅力を改めて感じることができました。この経験は、きっと一生忘れられない大切な思い出になると思います。